

令和7年度 学校評価【中間評価】の概要

①成果が認められた内容

	児童	保護者	教職員
	A+B=95%以上の項目（◎100%の項目）		A評価が75%以上の内容
確かな学力、安全安心な学級経営	<ul style="list-style-type: none"> 先生は授業やテストで、間違えたことなど分かるまで教えてくれる。 学校へ行くのが楽しい。 学校生活や友達関係に満足している。 ◎周りに困っている人がいたら進んで助けている。 ◎いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校は分かりやすい授業に努めていると思うか。 学校は子ども達の悩みなど相談に応じていると思うか。 ◎学校はいじめや不登校の未然防止に取り組んでいると思うか。 	<ul style="list-style-type: none"> 困っている児童がいたら、周りに声をかけたり助けたりしている。 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと、機会がある毎に伝えている。 学校生活の様子をよく観察し、良好な友だち関係になるように努めている。
上・基本的な生活習慣 健やかな心身の育成・体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 先生やおうちの人は、あなたががんばりや良いところを認めてくれる。 ◎人の役に立つ人間になりたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎お子さんの頑張りや良さを認めて（褒めて）いますか。 お子さんはあきらめずにがんばろうとしているか。 ◎お子さんは後片付けがしっかりできているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童のがんばりや良いところを努めて探し、認めて（褒めて）いる。 給食では嫌いなものも食べるように働きかけている。 苦手や難しいこともあきらめずにがんばれるように指導している。
その他 学校研究・	該当なし		該当なし
開かれた学校		<ul style="list-style-type: none"> ◎授業参観やホームページ、お便り等を通して学校の様子を知らせているか。 ◎PTA活動など、家庭・地域との協力体制ができているか。 ◎地域の人材や施設と関わる教育活動をしていると思うか。 ◎保護者からの相談や要望に対応していると思うか。 	

②課題が残る内容

	児童	保護者	教職員
	C+D=15%以上の項目		C+D=20%以上の項目
営 確かな学力、安全安心な学級経	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は進んで読書をしている。 ・困りごとや不安がある時、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんは学習の内容を分かっているか。 ・お子さんは読み・書き・計算などの基礎が定着していると思うか。 ・お子さんは宿題や自学など家庭学習に取り組んでいるか。 ・お子さんが読書をしているか。 ・困りごとや不安があるとき、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。 	該当なし
的 健全な生活習慣 やかな心身の育成・体力の向上・基本	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れの日にはスポーツをしたり、外で遊んだりしている。 ・ご飯は嫌いなものでも食べようとしているか。 ・ゲームや動画視聴時間など、家庭で決めた約束事を守っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんは運動などして元気に遊んだりしているか。 ・学校をすぐには休まないなど、お子さんに体力がついてきたと思うか。 ・晴れの日にはスポーツをしたり、外で遊んだりしている。 ・お子さんは好き嫌いをしていないか。 ・お子さんはゲームや動画視聴時間など、家庭で決めた約束ごとを守っているか。 ・お子さんは挨拶がしっかりとできているか。 	該当なし
学校研究・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学級では話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。 ・知らない人や大勢の人に、自分の考えや思いを話せる（ようになってきた）。 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童は知らない人や大勢の人に、自分の考えや思いを話せる。

【成果】

- ・児童はとてもやさしく、学年関係なく仲良しである。
- ・学校に楽しい気持ちで登校し、学習に真向きに取り組んでいる児童が多い。
- ・先生や保護者が児童のがんばりなどを認め、褒めており、児童も承認されていると感じている。
- ・学校が行った情報発信などが保護者に届いており、職員と保護者が協力して活動することができている。

【課題】

- ・児童の家庭での読書量がとても少なく、今後さらに読書指導が必要である。
- ・家庭学習の取り組み方や学習の理解度について、児童と保護者の認識に大きなずれがある。
- ・体を動かして遊ぶ機会が減り、ゲーム等の視聴時間が長くなっている傾向がみられる。
- ・児童には人前で発表したり、大きな声で話したりすることに苦手意識がある。
- ・今年度の学校研究は道半ばであり、今後さらに推進していく必要がある。